

第2回学校運営協議会・議事録

1 開催日・会場

令和3年9月21日(火) 10:30~12:00 第2会議室

2 参加者

- ① 大谷会長
- ② 松下副会長
- ③ 樋口委員
- ④ 藤田委員
- ⑤ 川島委員
- ⑥ 近藤委員
- ⑦ 弦元委員
- ⑧ 祖父江委員
- ⑨ 上野委員(校長)

3 協議等について

(1)審議内容について

- ・大谷会長から審議について説明がありました。
- ・学校がめざす学校像に対して、3本の柱である「重点目標」と「学校経営方針」と「提案」が対応していること。3カ年の重点目標と合致していることが学校への協力の根拠となること

【板野支援学校のめざす学校像】

学校運営:学校運営の質の向上
学校支援:学校教育の質の向上
地域支援:学校を核とした人づくり・地域づくり

【学校経営方針】

学校教育目標
児童生徒一人一人の人権を尊重し、教育的ニーズに応じた指導をとおして豊かな生活を支援するとともに、積極的に社会に関わり、自己実現をめざす人間を育成する。

【令和3年度重点目標】

- 安心安全な学校づくり
学校保健(医療的ケア等)や環境衛生等(感染症等)の推進
- 児童生徒に応じた教育活動の充実
障がい特性に応じた授業改善や特別支援教育の推進
- 保護者や関係機関等と連携した教育の推進
地域の学校、事業所に応じた教育相談やキャリア教育の推進

- ・各委員さんからは、「重点目標」と「学校経営方針」に関連させた数多くの素晴らしい「提案」が行われました。

(2)各委員さんからの提案概要は、次の通りです。

○提案①【新型コロナウイルス感染症予防対策の提案】

現在の新型コロナウイルス感染症の拡大原因の一つに家庭内感染があることから、東徳島医療センターの近藤委員に本校の保護者や教職員等に対して、家庭内感染予防についての講演などを行うことで感染予防につながるのではという提案でした。

・オンデマンドの活用や教員や保護者に対して40分程度の内容等について検討

○提案② 松下委員から【「障がい者アートによる人材育成」の提案】

オリパラが開催され障がい者の芸術部分がすごく注目されました。実際に、県外では障がいのある方で才能の持っている方が企業との連携やアート作品の販売に結びつけている事例の紹介がありました。このようなことが学校でもできれば、素晴らしい才能を持った児童生徒を伸ばしていけるのではという提案でした。

・児童生徒の才能を伸ばす土台づくりと企業との連携について検討

○提案③ 川島委員から【ドックスクールによる働く犬の学習」と「かわばたもろこの学習」とこうぞ(かじ)を使った地域学習の提案】

これまでの委員の経験から多くの出前授業の紹介が行われてきました。「ドックスクールによる働く犬の学習」では、学校に訓練犬を連れてきて、体験と知識を組み合わせた学習ができるのではという提案でした。「かわばたもろこの学習」では、大塚グループの徳島板野工場の人と環境に優しい工場というコンセプトで冷却水を再利用して絶滅危惧種のかわばたもろこの繁殖の取り組みについて説明があり、この活動を通じて環境教育(理科の学習)ができるのではという提案でした。

また、こうぞ(かじ)を使った地域学習については、天然こうぞを使った制作をしている人がおり、出前学習で伝統の魅力を知る知識学習ができるのではという提案でした。

・各出前学習においても、教職員の負担とならないような学習活動を検討

○提案④ 祖父江委員から【「障がい者ダンス」の提案】

障がい者ダンスは、新型コロナが拡大したことでオンラインでの広がりが見られました。障がい者の中のダンスレッスンがちらほら増えてきているが、様々な参加の仕方があり、障がいの重さによってダンス自体が難しい方は、音楽を作ってもらったり、動画編集をしたり、Web制作をしてみたりと活動を変えることで参加ができるのではという提案でした。

・単発でなく音楽の授業や体育の授業、オンラインでの活用も検討

○提案⑤ 弦元委員から【「梅を漬けてみませんか」の提案】

長期的な視点で、梅の収穫から赤しそ栽培、梅干し作り、商品化、販売まで(6次産業化で生産から販売まで)の一連の流れを体験しながら、地域の方と協力し、進めていく働く体験について説明がありました。この中では、障がいの程度に応じて様々な工程が準備できる良さだけでなく、働くことの厳しさや身だしなみ・衛生面に気をつけるなど働く基本も学んでいくこの説明もありました。将来的には、梅を使った商品のブランド化や地域の方と協力しながら道の駅「いたの」での販売などにつなげられるのではという提案でした。

・長期的な視点で、地域の方と連携し、梅を活用した商品化検討

○提案⑥ 樋口委員から【「あすたむらんどと連携して行う移動科学教室で体験学習」の提案】

あすたむらんどに近い本校ならではの出前学習として、工作やサイエンスショー、実験体験などを行うことができるという説明がありました。特に、コロナ禍の中で楽しい学校行事などがなくなった中で、新たな発見や楽しい体験などの貴重な学習ができるのではという提案でした。

・時期や参加者の人数やオンラインでの体験等の検討

○提案⑦ 松下委員から【「農福連携によるキャリア教育」の提案】

現在、農業分野は人手不足なので農福連携は注目されている。特別支援学校でも就業体験先で農作業なども行っているが、今後実習先の分野の拡大として地域の農業法人と現場実習での経験を積むことで、就職までつなげることができるのではという提案でした。

・本校の狭い土地の活用や今後狭い土地でもできる都市型園芸なども検討

○提案⑧ 藤田委員から【「地域とする防災訓練」や「カウンセラーの常駐」の提案】

どこの支援学校でも地域との防災連携が言われている。板野支援では防災訓練は、学校単独で行っており、これからは先生だけでなく地域と関わりを持ちながら協力し行うような訓練が大切との説明がありました。児童生徒が様々な地域から、いろいろな手段で登校していることを踏まえ、地域と連携した防災訓練が災害から守ることにつながるという提案でした。

・交流校や地域の方に本校の児童生徒の理解が進む防災訓練を検討

学校には月1回スクールカウンセラーがきているが保護者が話せる機会が少ない。以前は保護者控え室もあったが、現在はなく、保護者同士が相談できる機会や時間も減ってきている。親の話を聞いてもらえる第三者でボランティアでもいいので常駐し話を聞いてもらえるような体制づくりがあればという提案でした。

・人員の配置や予算面のこと検討

4 今後について

各委員からの提案について、今後検討させていただき、できるところから進めてまいりたいと考えております。また行う際には、委員の皆さんご協力をお願いします。

大変お忙し中、ご出席していただきありがとうございました。